

# お台場旧防波堤（鳥の島2島）における鳥類のモニタリング調査 夏季調査（8月）報告書

平成30年8月 一般社団法人 お台場海づくり協議会

## 1. 調査目的

お台場海浜公園内防波堤（通称鳥の島）における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査対象地域

お台場海浜公園内堤防（通称鳥の島）2島及び周辺水域（周辺50m程度）

## 3. 調査期日等

調査期日等を表1に示す。

表1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
平成30年7月17日（火）	8:00~14:00	晴

## 4. 調査方法

各調査項目において、倍率8~10倍程度の双眼鏡や倍率20~60倍程度の望遠鏡などを必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）~（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2島に調査員を1名ずつ配置し、2島同時に実施した。

### （1）船上センサス

鳥の島の2島の50m程度沖を船舶により定速で周回しながら、鳥の島及び周辺を観察し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。

### （2）ラインセンサス

各島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速1~2km程度の速度で歩きながら目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。センサスルートは各島に1本を設定し、観察範囲は片側50m（両側100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望の卓越した定点を設定し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。観察半径は50 m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

鳥の島の2島を任意に踏査し、目視または鳴き声などで確認された鳥類の種名、個体数、行動などを記録した。



写真 1 各調査手法における調査風景

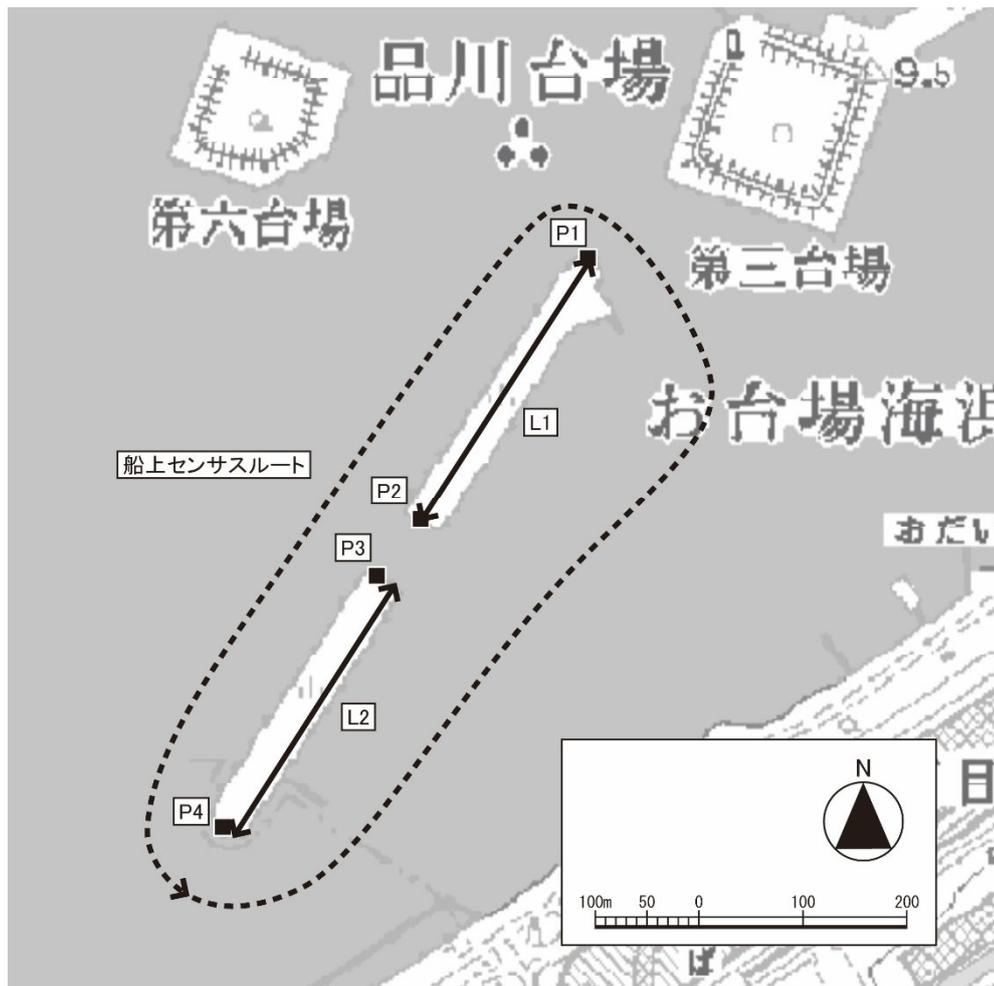


図 1 調査地点図

## 5. 調査結果

### (1) 現地調査結果

- 現地調査の結果、6目14科18種が確認された(表2)。
- 確認種の多くは水域やその周辺に生息する鳥類であり、カワウやウミネコなど11種が確認された。島内の樹林では、シジュウカラやヒヨドリなど森林やその周辺に生息する鳥類が3種確認された。そのほか、都市部に普通に生息するキジバトやハシブトガラス、スズメなども確認された。
- 確認種は、カルガモやスズメなどの留鳥(ある地域で一年中見られる種)が多く、コチドリのような夏鳥(ある地域で夏に見られる種)も確認された。
- 重要種はダイサギ、コサギ、コチドリ、イソシギの合計4種が確認された(表2)。ダイサギとコサギは島内の護岸で休息する個体や、周辺海域を飛翔する個体が、コチドリとイソシギは島内の護岸で採食する個体が確認された。
- 確認個体数が最も多かった種はカワウとスズメであった。カワウは、船上センサス

では2島で合計69個体(表3)、定点観察調査で2島で合計98個体(表5)が確認された。スズメは、ラインセンサスでは2島で合計18個体が確認され、優占度は島の北側で43%、島の南側で36%であった(表4)。カワウは、2島で成鳥や若鳥、巣立ち後の幼鳥が確認された。スズメは、桜で昆虫類を採食する幼鳥などが確認された。

- スズメとシジュウカラの幼鳥が桜で昆虫類を採食する様子や、ハクセキレイの幼鳥が護岸で探餌する様子が確認された。いずれの種も島内での繁殖は確認されていないため、他地域からの飛来と考えられる。巣立ち後に分散し始めた幼鳥にとって、島内は好適な採食場所となっている可能性がある。

## (2) 前回調査との比較

- 平成28年の秋季(10月)～平成29年の夏季(7月)までの調査を第2回、平成29年の秋季(10月)以降の調査を第3回とし、第2回と第3回の夏季調査の結果を比較した。表6に確認種の比較、表7～9は手法別に、表7に船上センサス結果の比較、表8にラインセンサス結果の比較、表9に定点観察調査結果の比較を示した。第2回では島の北側(以下、北側)で15種、島の南側(以下、南側)で17種、合計18種、第3回では北側で17種、南側で15種、合計18種であった(表6)。第2回の確認種(18種)のうち、約8割(15種)は第3回でも確認されており、鳥類相に大きな変化はなかった。
- 今回はじめて確認された種は、ゴイサギであった(表10)。周辺海域上空を第三台場方面へ飛翔する個体が確認された。
- 外来種は第1回、第2回、第3回を通して確認されていない。
- 船上センサスの結果を比較したところ、カワウの減少が認められた。第2回では2島で合計212個体が確認されたが、第3回では合計69個体であり、減少率は77%であった(表7)。ラインセンサスの結果も同様の傾向を示し、カワウの優占度は第2回では北側で68%、南側で64%であったが、第3回では北側で30%、南側で23%と減少傾向にあった(表8)。第2回では育雛中のつがいが確認されており、巣内雛や、親鳥の雛への給餌などの繁殖活動が確認された。一方、第3回では育雛中のつがいや巣内雛は確認されず、島内の全てのペアが繁殖活動を終えたことが示唆された。こうした状況から、既に繁殖活動が終了し、島内の繁殖個体が島外へと分散し始めたために、カワウの個体数が減少した可能性がある。

表 2 鳥類確認種目録

No.	目	科	種	調査時期		重要種選定基準			
				夏季(7月)		①	②	③	④
				北側	南側				
1	カモ	カモ	カルガモ	○	○				
2	ハト	ハト	キジバト	○	○				
3	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○				
4	ペリカン	サギ	ゴイサギ	○					
5			アオサギ	○	○				
6			ダイサギ	○					VU
7			コサギ	○	○				VU
8	チドリ	チドリ	コチドリ	○	○				VU
9		シギ	イソシギ	○	○				VU
10		カモメ	ウミネコ	○	○				
11			オオセグロカモメ	○					
12	スズメ	カラス	ハシブトガラス	○	○				
13		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○				
14		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○				
15		ムクドリ	ムクドリ	○	○				
16		スズメ	スズメ	○	○				
17		セキレイ	ハクセキレイ	○	○				
18		アトリ	カワラヒワ		○				
合計	6目	14科	18種	17種	15種	0種	0種	0種	4種

注1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。

注2. 重要種選定基準は以下の通りである。

①文化財保護法(昭和25年、法律第214号)

天:天然記念物 特:特別天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号;平成23年改訂)

国内:国内希少野生動物 国際:国際希少野生動物

③「第5次レッドリストの公表について」(平成30年、環境省)における掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

④「レッドデータブック東京2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部解説版)~」(平成25年、東京都)における区部の掲載種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 留意:留意種

表 3 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				夏季 (7月)		
				北側	南側	
1	カモ	カモ	カルガモ	3	1	4
2	カツオドリ	ウ	カワウ	19	50	69
3	ペリカン	サギ	アオサギ	4	2	6
4			コサギ	3	0	3
5	チドリ	シギ	イソシギ	0	2	2
6		カモメ	ウミネコ	0	1	1
7	スズメ	スズメ	スズメ	4	1	5
合計	5 目	6 科	7 種	33	57	90

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 4 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季 (7月)				
				L1 (北側)		L2 (南側)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	1	5%	1
2	ハト	ハト	キジバト	2	9%	1	5%	3
3	カツオドリ	ウ	カワウ	7	30%	5	23%	12
4	ペリカン	サギ	アオサギ	1	4%	0	0%	1
5			コサギ	0	0%	1	5%	1
6	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	4%	5	23%	6
7		シジュウカラ	シジュウカラ	2	9%	0	0%	2
8		スズメ	スズメ	10	43%	8	36%	18
9		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	1	5%	1
合計	5 目	8 科	9 種	23	100%	22	100%	45
				6 種		7 種		9 種

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 5 定点観察調査結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				夏季 (7月)				
				北側		南側		
				P1	P2	P3	P4	
1	カツオドリ	ウ	カワウ	4	20	2	72	98
2	ペリカン	サギ	ダイサギ	1	0	0	0	1
3			コサギ	0	0	0	1	1
4	チドリ	シギ	イソシギ	0	0	1	2	3
5		カモメ	ウミネコ	0	0	3	3	6
6			オオセグロカモメ	1	0	0	0	1
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	0	1	0	2
8		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0	0	1	1
9		ムクドリ	ムクドリ	1	1	1	0	3
10		スズメ	スズメ	1	4	1	0	6
11		セキレイ	ハクセキレイ	0	0	0	1	1
12		アトリ	カワラヒワ	0	0	0	1	1
合計	4 目	10 科	12 種	9	25	9	81	124

注 1. 分類、配列などは原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 前回調査結果との比較（夏季）

No.	種名	第 2 回 (H28-H29)		第 3 回 (H29-H30)	
		夏季 (7月)		夏季 (7月)	
		北側	南側	北側	南側
1	カルガモ		○	○	○
2	キジバト		○	○	○
3	カワウ	○	○	○	○
4	ゴイサギ			○	
5	アオサギ	○	○	○	○
6	ダイサギ	○	○	○	
7	コサギ	○	○	○	○
8	コチドリ		○	○	○
9	イソシギ	○	○	○	○
10	ウミネコ	○	○	○	○
11	オオセグロカモメ			○	
12	トビ	○	○		
13	オナガ	○	○		
14	ハシブトガラス	○	○	○	○
15	シジュウカラ	○	○	○	○
16	ツバメ	○	○		
17	ヒヨドリ			○	○
18	ムクドリ	○	○	○	○
19	スズメ	○	○	○	○
20	ハクセキレイ	○		○	○
21	カワラヒワ	○	○		○
合計		15 種	17 種	17 種	15 種
		18 種		18 種	

表 7 前回調査との比較：船上センサス結果（夏季）

No.	種名	調査時期			
		夏季（7月）			
		第2回 (H28-H29)		第3回 (H29-H30)	
		北側	南側	北側	南側
1	カルガモ	0	4	3	1
2	カワウ	78	134	19	50
3	アオサギ	9	8	4	2
4	コサギ	9	0	3	0
5	イソシギ	0	0	0	2
6	ウミネコ	0	0	0	1
7	ハシブトガラス	0	2	0	0
8	シジュウカラ	2	1	0	0
9	スズメ	1	0	4	1
合計個体数		99	149	33	57
合計島別種数		5種	5種	5種	6種
合計種数		7種		7種	

表 8 前回調査との比較：ラインセンサス結果（夏季）

No.	目名	科名	種名	調査時期							
				夏季（7月）							
				第2回（H28-H29）				第3回（H29-H30）			
				L1（北側）		L2（南側）		L1（北側）		L2（南側）	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%
2	ハト	ハト	キジバト	0	0%	0	0%	2	9%	1	5%
3	カツオドリ	ウ	カワウ	27	68%	16	64%	7	30%	5	23%
4	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	0	0%	1	4%	0	0%
5			コサギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%
6	タカ	タカ	トビ	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	0	0%	1	4%	1	4%	5	23%
8		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	1	4%	2	9%	0	0%
9		ツバメ	ツバメ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%
10		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	3	12%	0	0%	0	0%
11		スズメ	スズメ	5	13%	3	12%	10	43%	8	36%
12		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%
13		アトリ	カワラヒワ	7	18%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	6目	12科	13種	40	100%	25	100%	23	100%	22	100%
				4種	6種	6種	7種				

表 9 前回調査との比較：定点観察調査結果（夏季）

No.	種名	調査時期															
		夏季（7月）															
		第2回（H28-H29）								第3回（H29-H30）							
		北側				南側				北側				南側			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	キジバト	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2	カワウ	3	16%	3	43%	7	41%	25	69%	4	44%	20	80%	2	22%	72	89%
3	アオサギ	1	5%	1	14%	0	0%	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
4	ダイサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	11%	0	0%	0	0%	0	0%
5	コサギ	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
6	コチドリ	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
7	イソシギ	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	1	11%	2	2%
8	ウミネコ	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	33%	3	4%
9	オオセグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	11%	0	0%	0	0%	0	0%
10	オナガ	0	0%	2	29%	2	12%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
11	ハシブトガラス	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	1	11%	0	0%	1	11%	0	0%
12	シジュウカラ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
13	ツバメ	0	0%	0	0%	0	0%	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
14	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	11%	1	4%	1	11%	0	0%
15	スズメ	4	21%	1	14%	4	24%	5	14%	1	11%	4	16%	1	11%	0	0%
16	ハクセキレイ	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
17	カワラヒワ	8	42%	0	0%	2	12%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
合計		19	100%	7	100%	17	100%	36	100%	9	100%	25	100%	9	100%	81	100%
		7種		4種		6種		6種		6種		3種		6種		7種	

表 10 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 3 回)

No.	種名	調査時期					
		第 1 回 (H27 夏～H28 春)		第 2 回 (H28 秋～H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～H30 夏)	
		北側	南側	北側	南側	北側	南側
1	オカヨシガモ				○		○
2	マガモ		○	○	○		○
3	カルガモ	○	○	○	○	○	○
4	オナガガモ				○	○	○
5	ホシハジロ						○
6	スズガモ	○	○	○	○	○	○
7	ウミアイサ		○				
8	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○
9	ミミカイツブリ			○			
10	ハジロカイツブリ	○	○	○	○		
11	キジバト	○	○	○	○	○	○
12	カワウ	○	○	○	○	○	○
13	ゴイサギ					○	
14	ササゴイ		○				
15	アオサギ	○	○	○	○	○	○
16	ダイサギ	○	○	○	○	○	○
17	コサギ	○	○	○	○	○	○
18	オオバン	○	○	○	○	○	○
19	コチドリ	○	○		○	○	○
20	イソシギ	○	○	○	○	○	○
21	キョウジョシギ					○	○
22	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○
23	ウミネコ	○	○	○	○	○	○
24	カモメ	○	○			○	
25	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○
26	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○
27	コアジサシ	○	○	○	○	○	○
28	ミサゴ	○		○			○
29	ハチクマ	○					
30	トビ	○	○	○	○	○	○
31	ハイタカ		○		○		
32	オオタカ	○		○	○	○	
33	ノスリ		○	○	○	○	
34	カワセミ			○			○
35	チョウゲンボウ		○				○
36	ハヤブサ			○	○	○	○
37	モズ			○	○	○	○
38	カケス				○		
39	オナガ			○	○	○	○
40	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○
41	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○

表 10 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 3 回)

No.	種名	調査時期					
		第 1 回 (H27 夏～H28 春)		第 2 回 (H28 秋～H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～H30 夏)	
		北側	南側	北側	南側	北側	南側
42	ヒバリ						○
43	ツバメ	○	○	○	○	○	○
44	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○
45	ウグイス	○	○	○	○	○	○
46	メジロ	○	○	○	○	○	○
47	オオヨシキリ			○		○	
48	ムクドリ	○	○	○	○	○	○
49	コムクドリ				○	○	
50	シロハラ	○	○	○	○		
51	アカハラ	○			○		
52	ツグミ	○	○	○	○	○	○
53	ジョウビタキ	○		○	○	○	○
54	イソヒヨドリ	○	○		○		○
55	キビタキ	○				○	
56	スズメ	○	○	○	○	○	○
57	キセキレイ			○			
58	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○
59	セグロセキレイ				○		
60	タヒバリ						○
61	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○
62	ホオジロ	○		○	○		
63	アオジ	○	○	○	○	○	○
64	オオジュリン			○			
65	ドバト	○	○				
合計	65 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	44 種
		47 種		53 種		51 種	



カルガモ



キジバト



カワウ



カワウ(幼鳥)



ゴイサギ



アオサギ



コサギ(重要種)



コチドリ(重要種)



イソシギ(重要種)



ウミネコ

写真 2 (1) 鳥の島で確認された主な鳥類



ハシブトガラス



シジュウカラ(幼鳥)



スズメ(幼鳥)



ハクセキレイ(幼鳥)

写真 2 (2) 鳥の島で確認された主な鳥類